

令和 8 年度第 1 回鹿角市行政評価市民会議

日 時：令和 8 年 7 月 2 9 日（水）18 時 00 分～19 時 40 分

場 所：鹿角市役所 第 5 会議室

出席委員：8 名中 7 名

出席職員：事務局：

〔政策企画課〕次長兼課長、政策監兼室長、

主査、主査、主事

〔行政経営推進室〕推進官、主幹、主査

1 開会（進行：事務局）

ただいまから、令和 8 年度第 1 回鹿角市行政評価市民会議を開会する。

出席職員自己紹介

2 会長あいさつ

任期 1 年目は、自分が市民として生活していく中で色々と考える 1 年となった。今年度はそういった考えを会議の場で反映させていきたい。他の委員の皆様も同様の視点で携わっていただきたい。

本日は案件が多いが、ぜひ忌憚のない発言をお願いします。

3 案件

（1）令和 8 年度市民アンケート実施結果（速報集計）について（資料 1）

事務局説明

説明の概略

- ・市民アンケートの調査項目は、第 7 次総合計画前期基本計画に掲げた 32 の取組方針ごとの市の取組に対する満足度や重要度などについて測るものとしており、設問数は 14 問である。
- ・対象者は、本市の総人口における男女割合、年齢別割合、地区別割合を考慮して抽出している。
- ・アンケート結果の最終版は、実施結果報告書という冊子版で委員に後日配付する。また、市ホームページ及び広報かづの 9 月号にて結果を公表する予定。

質 疑

（委員）

調査の期間が 5 月 2 8 日から 6 月 1 2 日だったが、学校再編案が公表される前だったか。

（事務局）

公表される前であった。

(委員)

学校再編案が公表された後に同じアンケートを取ったら結果が変わっていたと思われる。まちづくりを絡めて、どこにまとめていくのか、新設するのか、既存の校舎を使うのか、そういった要素がアンケート結果にも影響するのではないかと考えた。

また、人口減少により、若者が少なくなってきた、働き手がいなくなる。既存の仕事が減らないのであれば、窮屈な世の中になる。今後どのように政策を進めていくのかを皆で考えていかなければならないと感じた。

(事務局)

学校再編については、昨年度の市民アンケートで捉えており、約8割の市民から同意を得られているという結果が出ていた。そういった事情も受け入れていただきつつ、今回のアンケートにて評価くださったと考えている。

一方で、昨年度のアンケート結果をもとに、教育委員会で学校再編案を示させていただいたが、決定事項ではなく、各地で行われる説明会等をもとに、まちづくりの視点も含めて検討していくこととなる。

新設するのか、既存の校舎を使うのかについても、市民の皆様と対話を重ねながら進めていくことになる。

また、人口減少については、鹿角市に限らずどの自治体でも起きていることであり、鹿角市人口ビジョンでも示させていただいているとおりである。実際に仕事をどうしていくかについては、市の産業政策として、まずは一刻も早くDX化を進めるため、若手起業家で構成している「かづの産業未来創造会」が先だって仕事をデジタルに置き換える作業を行っている。

機械化については、市で高度化の補助をしており、置き換えを推進している。それでも人手が必要な仕事もあるため、アイデアを出し合うことで、「産業間の連携」が重要になってくると考えている。横軸を強化する政策を進めていきたい。

(委員)

市の政策について、「適切な医療を受けられる体制の整備」が、重要度1位でありながら満足度が最下位となり、昨年同様、今年度も同じ結果となった。中核となるかづの厚生病院から、今後の方向性を求められていると思うが、医療に関する事なので急いで対策しなければならないと思う。

先日尾去沢地区で医療ミーティングがあったが、グループ討論の中で様々な不安の声や色々な考え方があると思った。満足度に関して、具体的にどのようなことが不満なのかを深堀していったらいいのではないかと意見させていただいたが、これまで市民に聞く場面はあったのか。

(事務局)

これまで、さらに踏み込んで問う機会はなかったが、市民アンケートの自由記述欄で医療に関する意見もいただいている。この後集計して第2回の市民会議にて「最終報告書」としてお示しする。集計段階での感覚としては、かづの厚生病院の縮小という話題が大きいと感じているが、元々あった診療科を戻すという選択肢は現実的ではないと考えるため、現在策定に向け市民の皆様の意見をいただいている「医療ビジョン」にて、最低限確保する部分を詰めている状況となっている。

(委員)

実際、厚生病院については、私がホテルに勤めていることもあり、最近は医者への宿泊が増えている。常勤医が減り、非常勤医を頑張って集めていただいているという状況が見える。なんとか鹿角市と協力

して中核病院を守ってほしい。

(2) 第12期鹿角市行政評価市民会議意見集（令和7年度分）について（資料2）

事務局説明

説明の概略

委員からいただいた意見、それに対する対応、既に取り組中であるもの、翌年度の実施計画に反映したもの、もしくは反映が困難なもの、引き続き検討が必要であるものに分類してまとめている。このような形でいただいた意見を市役所内全体で共有して対応している。

今回は令和7年度第3回の会議で出された意見について説明。

質 疑

(委員)

医師確保について、普段仕事で救急搬送の支援をさせていただくことがあるが、一度厚生病院に搬送された方で、応急処置の後すぐに大館市立病院へ搬送されたケースが、自分の担当の中だけでも半年で2～3件あった。

今までは自分の担当の方が入院した際は厚生病院を訪問することが多かったが、退院調整ははじめ、大館まで足を運ばなければならないケースが増えている。脳外科の常勤医がいなくなったことは特に影響が大きいと考える。紹介するにしても、交通手段がない利用者には厳しく、ましてや弘前までというケースもあるので、対策してほしい。

(事務局)

医療に関しては「不満」との回答が多かったことで、「不安」が積み重なった「不満」という評価であると捉えている。医療ビジョンの中において、「鹿角市で受けられる医療」をはじめとした、鹿角市の医療に対する考え方を整理し、「不安」が解消できるような医療ビジョンになるものと考えている。

各地区の医療ミーティングで寄せられた意見等を吸い上げることで策定に向け進めているのでご理解いただきたい。

(委員)

介護の調査ということで、末期がんの方が岩手医大等の県外に入院されているケースがあるが、鹿角市が手配して盛岡市の担当が調査する仕組みとなっているため時間が多大にかかり、その間に悪化して調査を受けられないままだったということも発生している。ぜひオンラインでできるようになれば助かる。

(事務局)

意見として承る。

(委員)

熊問題が気になっており、自分は果樹栽培を生業としているが、収穫前の食害より、実をつける枝を折られてしまうことの方がダメージは大きい。熊対策は様々講じていただいているが、リアルタイムの出没状況や、出没状況を投稿できる様なアプリがあれば、市や警察経由のタイムラグがなくなり利活用しやすいと思う。

(事務局)

熊対策はできる限り早く市民に周知できるよう心がけており、メール配信や LINE で一刻も早くお伝えしている。また、プッシュ通知機能がある県のクマダスも併せて有効に活用していただきたい。

今年度からガバメントハンター2名を採用し、より強力に熊対策を進めていく。

(委員)

去年に比べて熊の出没件数が減っていると感じている。対策が実を結んでいると思うので、農業者が多い地域であることから、引き続き対策をしていってほしい。

(3) 鹿角市行政経営基本方針について(資料3・4・5)

事務局説明

説明の概略

行政経営推進室の設置目的や、行政経営基本方針の位置づけ、計画期間、推進のための3つの視点と推進項目、推進体制及び進行管理を示し、令和8年度の計画と事務スケジュールを説明。

質 疑

(委員)

入札関係や証明書等の手続きがDX化することはありがたい。引き続き推進していただきたい。

(事務局)

DX化により、24時間オンラインで手続きが可能になるため、力を入れて進めていきたい。

(委員)

前回の会議でも意見させていただいたが、行財政改革において、歳出を減らすことと同時に歳入を増やすという改革が重要と考える。人口が減少していく中で、財源は地方交付税に頼らざるを得ない。

過去、小泉内閣下で「三位一体の改革」があったが、結局、地方交付税が減らされた影響が大きく、地方公共団体には厳しい状況となった。その為、行政経営推進室が組織されて良かったと感じている。

大きな法人を誘致することで財源が増えていくが、なかなか地方では難しい。やはり人口を増やすことが必要で、鹿角市の魅力を武器に呼び込むことが必要である。

カーボンニュートラルについては、国が推進している内容と、市が推進している内容が異なると思うため、その違いを公表し、環境の良さを全国にアピールすることで人を集めることはいかがか。

(事務局)

本市は地方交付税に頼らざるを得ない状況であり、今後もこの状況は続いていくと思われる。行政経営基本方針で直接明記はしていないが、新たな歳入の確保策も重要と考える。

また、市税の収納率については収納率が1%上がることで約3,000万円歳入が増えるため、市民の公平性の部分も含めて力を入れて取り組んでいきたい。

人口減少はどうしても避けられず、減るスピードを抑えるというような視点となるが、移住対策については、カーボンニュートラルを始めとした市の魅力をアピールしながら進めていきたいと考えている。

(委員)

施設の利用料はどのくらい上がるのか。

(事務局)

現在調査・確認中の為具体的には示すことができないが、施設の利用料は、施設の維持管理費に基づくため、昨今の物価上昇により維持管理費も上昇傾向である。過去、最後に使用料を値上げしたのは消費税率が引き上げとなった令和元年10月である。

受益者負担の適正化を図る意味で取り上げた。急激に上がることがないように配慮しながら改定を進めていきたい。

(委員)

支出を減らすことを考えがらだが、減らし続けた先は「事業が何もできなくなってしまう事」なので、市として、市民により良い暮らしをしてほしいという視点で、数字にとらわれ過ぎず公共施設の必要性を判断して行ってほしい。

4 その他**(事務局)**

今回の会議は、8月下旬の開催を予定している。後日、日程を調整しご都合を確認させていただく。今回は、市が行った令和7年度の取組について、市役所内部で行った評価の結果が適切かどうか議論いただく。また、市民アンケートの最終報告書も配付する。

第1回目ということで、説明時間が多くなる内容であった。長時間に渡りご協力に感謝する。

第2回目は、我々の内部評価を外部評価としてご意見いただくという、この会義の本質的な内容となる。引き続きよろしくお願いします。

5 閉会 (19:40 終了)